

OCI 上の Cisco ISE の使用に関する既知の制限事項

OCI 上の Cisco ISE の使用に関する既知の制限事項

- Cisco ISE アップグレードワークフローは OCI ではサポートされていません。新規インストールのみがサポートされています。ただし、設定データのバックアップと復元は可能です。ハイブリッド Cisco ISE 展開のアップグレードについては、『Upgrade Guidelines for Hybrid Deployments』を参照してください。
- パブリッククラウドはレイヤ 3 機能のみをサポートします。OCI 上の Cisco ISE ノードは、レイヤ 2 の機能に依存する機能をサポートしません。たとえば、Cisco ISE CLI を介してアクセスされる DHCP SPAN プロファイラプローブおよび CDP プロトコル機能はサポートされていません。
- Cisco ISE で IPv6 アドレスを有効にするには、Cisco ISE の OCI ポータルで IPv6 アドレスを設定し、インターフェイス ギガビットイーサネット 0 を再起動します。Cisco ISE シリアルコンソールに管理者としてログインし、次のコマンドを実行します。

```
#configure terminal
Entering configuration mode terminal
(config)#interface GigabitEthernet 0
(config-GigabitEthernet-0)#shutdown
(config-GigabitEthernet-0)#no shutdown
(config-GigabitEthernet-0)#exit
(config)#exit
```

- 設定データの復元およびバックアップ機能を実行する場合、バックアップ操作が完了した後、まず CLI から Cisco ISE を再起動します。次に、Cisco ISE GUI から復元操作を開始します。Cisco ISE のバックアップおよび復元プロセスの詳細については、ご使用のリリースの『[Cisco ISE Administrator Guide](#)』にある「Maintain and Monitor」の章を参照してください。
- パスワードベースの認証を使用した Cisco ISE CLI への SSH アクセスは、OCI ではサポートされていません。キーペアを介してのみ Cisco ISE CLI にアクセスできます。このキーペアを安全に保管してください。

秘密キー（または PEM）ファイルを失った場合、Cisco ISE CLI にアクセスできません。

パスワードベースの認証方式を使用して Cisco ISE CLI にアクセスする統合は、サポートされていません（たとえば、Cisco Catalyst Center 2.1.2 以前のリリース）。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。